

# バンドンにおける「創造的」市長の台頭

平成 26 年入学  
派遣先国：インドネシア  
金 悠進

キーワード：インドネシア、バンドン、創造都市、リドワン・カミル

## 対象とする問題の概要

インドネシアでは 2000 年代半ば以降、ファッションや音楽、映画などの「創造産業」が、インドネシア経済の新たな成長エンジンとして注目を浴び、2015 年には創造経済庁が発足した。バンドンでは、2013 年のバンドン市長選挙に勝利したリドワン・カミルのもと、創造都市政策が実施されている(写真①)。

## 研究目的

本研究の問いは、なぜインドネシアで「改革派」のリーダーが政治的に台頭してきたのかというものである。その事例として、なぜ創造性を強調したプログラムを実施するバンドン市長リドワン・カミルが、2013 年のバンドン市長選挙で勝つことができたのかを明らかにすることが本研究の目的である。これにより、本研究はインドネシア都市政治研究に学術的な貢献をする可能性がある。

## フィールドワークから得られた知見について

上記の目的に基づく調査に対して、今回のフィールドワークでは以下のような結果が得られた。

- (1)バンドンの写真家、ガリ・スダユとのインタビュー(写真②)から、リドワンが設立したバンドン・クリエイティブシティ・フォーラム(BCCF)は、2013 年のバンドン市長選挙で、リドワン・カミルの選挙キャンペーンを支援したということ。
- (2)バンドンのデザイナー、アンディとのインタビュー(写真③)から、上述(1)の一方で、BCCF 内部では、様々なプログラムに充てられる資金が、他のクリエイティブ・コミュニティに分配されない問題を抱えており、必ずしも、BCCF に関わる人々全員がリドワン・カミルの選挙キャンペーンを支援したわけではないということ。

## 今後の展開・反省点

創造産業には様々なアクターが関わっているが、今回の調査では時間的制約もあり、社会アクターに絞って、写真家やデザイナーに聞き取り調査をした。リドワン・カミルに関する新しい資料を複数入手することができたため、今後はそれらの分析に注力したい。



写真①BCCF によってつくられた創造都市バンドンの記念碑



写真②写真家のガリ・スダユと



写真③デザイナーのアンディと